

経済・金融フラッシュ

No.07-042 2007/07/06

米企業部門は、製造業・非製造業とも堅調水準を回復へ

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doiara@nli-research.co.jp

1、6月ISM指数は、製造業・非製造業とも14ヵ月ぶりの高水準

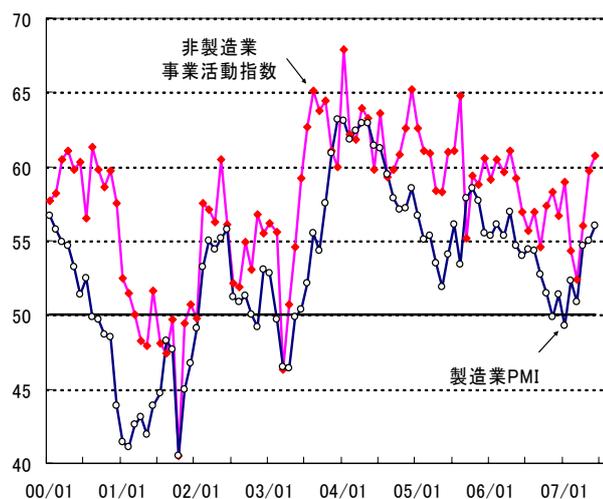
企業のセンチメントを示すISM指数は、7/2 発表の6月製造業指数が 56.0 と前月 (55.0)・市場予想 (55.0) をともに上回った。本年3月 (50.9) を直近のボトムに3ヵ月連続の上昇で、昨年4月 (56.9) 以来14ヵ月ぶりの高水準を回復した。主要指数である生産指数や新規受注指数の上昇が全体を押し上げた形である。

一方、7/5 に発表された6月の非製造業事業活動指数は 60.7 と前月 (59.7)・市場予想 (57.5) をともに上回り、製造業と同様、昨年4月 (61.1) 以来の水準を回復した。非製造業の活動は4・5月の急速な改善後、さらに水準を高めており、ISMでは「6月の非製造業部門は5月以上のペースでの成長を続けた」とコメントしている。

ただし、事業活動以外の非製造業部門の各指数を見ると、輸入や入荷遅延が上昇した半面、多くの指数で下落を見せており、特に在庫や新規輸出受注等の下落幅が大きく、4・5月に見られたほどの急回復ではなかったことを裏付けている。

いずれにしてもISM指数は、昨年末から1-3月期にかけての低下を経て、4-6月期は、製造業・非製造業ともに一層改善していることを示しており、今のところ住宅市場低迷や原油・ガソリン高等の影響はそれほど大きくないと見られている。

(図表1) ISM指数の推移



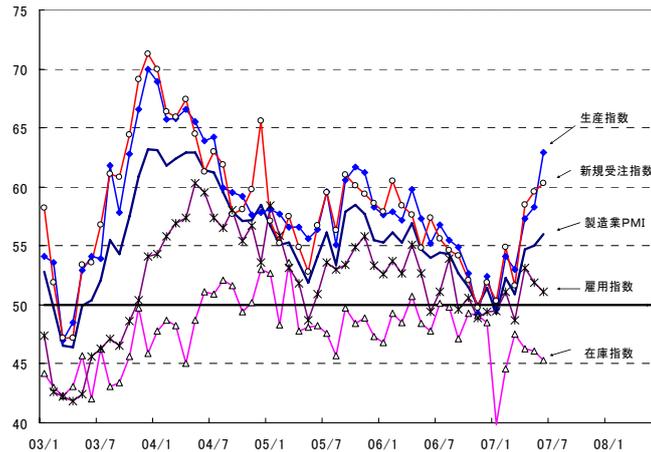
(資料) Institute for Supply Management

2、ISM製造業指数では、生産・受注指数の改善が顕著

製造業ISM指数のうち、6月の主要指数の動きを見ると、生産指数が62.9(前月58.3)、新規受注指数が60.3(前月59.6)、等が上昇しPMIを押し上げている。特に、生産指数は、約3年ぶりの高水準となる。半面、雇用指数が51.1(前月51.9)、在庫指数が45.3(前月46.1)と低下を見せた。こうした

跛行色はここ数ヵ月見られており、生産・新規受注指数の顕著な上昇に対し、雇用・在庫指数等では連月での下落の動きを続けている。このことは足元の企業センチメントが改善傾向にあるにもかかわらず、在庫・雇用等にはなお慎重姿勢を見せていることを示しており、景気の方角を慎重に見ていることの現れとも見て取れる。今後は、かなりの高水準に達した生産・受注から、在庫や雇用への波及が注目されよう。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移



(資料) Institute for Supply Management

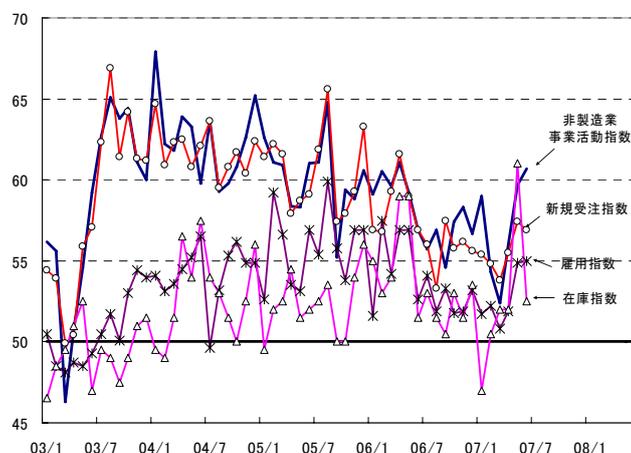
3、非製造業では事業活動以外の指数は、全般的に高止まり

ISM非製造業指数のうち、6月の事業活動指数以外の動きを見ると、輸入指数が57.5(前月55.5)、入荷遅延50.5(前月49.5)、雇用55.0(前月54.9)等が上昇した。雇用指数は僅かな上昇ではあるが、昨年5月以来の高水準にあり、サービス業の雇用堅調を示している。

一方、新規受注56.9(前月57.4)を始め、その他の多くの指数では下落を見せており、特に在庫(61.0→52.5)や新規輸出受注(66.0→59.0)等の下落幅が大きかった。また、価格指数も65.5と前月66.4から低下したものの、高水準に留まっている。

なお、低下を見せた指数が多いとは言え、全体の過半の指数が55

(図表3) ISM各非製造業指数の推移



(資料) Institute for Supply Management



を上回るなど水準自体は高く、サービス業の好調さを示していることに変わりはない。

4、景気堅調の見方を強め長期金利は上昇、本日の雇用統計に注目

6月ISM製造業指数の上昇は、製造業の回復度が強まってきたことを示しており、今後の企業投資の増加を期待させるものとなった。実質GDPベースでの設備投資は、2006年10-12月期に前期比年率▲3.1%と4年ぶりの低水準に落ち込んだ後、本年1-3月期も同2.6%と低率に留まっており、4-6月期以降の回復を示唆するものと言えよう。ただし、在庫投資については、2006年10-12月期に寄与度▲1.16%、本年1-3月期同▲0.97%と2四半期連続でのマイナスとなったが、ISM在庫指数では、1月のボトム39.9からは回復したものの、3月の47.5をピークに3ヵ月連続の低下となっており、依然、慎重な在庫積み増し姿勢が窺われる。

一方、ISM非製造業指数では、雇用指数の上昇が注目される。雇用は引続き、サービス業を中心に底堅い増加が続くと見られ、本日発表の雇用統計（市場予想では12~13万人増）に注目が集まっている。

金融市場では、昨日の景気堅調を示すISM非製造業指数の発表やオートマチック・データ・プロセッシング（ADP）の6月雇用増（民間非農業事業部門）が15万人と発表されたこと等により、FRBの年内利下げがないとの見方がさらに強まり、債券金利は急上昇（10年国債金利で前々日の5.05%から5.15%へ）し、外為市場ではドル高となった。今後、雇用統計次第では5年ぶりの高水準となった6月の高金利（5.33%）へのトライもあり得る情勢と言えよう。